

トレイルOワールドの
う・ご・きは「A」コン
トロール・・・うぬ??
うぬ? 「A」クラスター?
なんじゃそれ??

トレイルOのコースをまわっている
とき、あるコントロールへ来たら、D
Pからたくさんのフラッグが見えるで
はないか!?

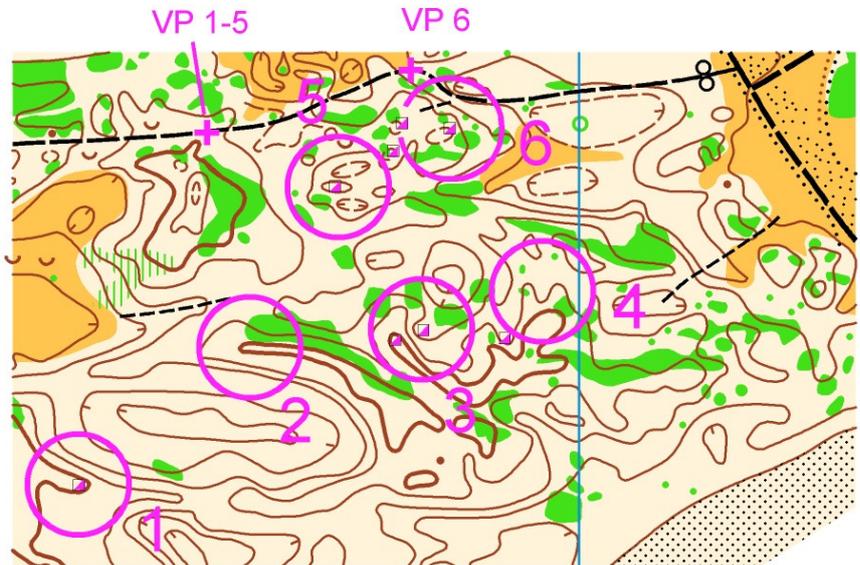
コントロールでのフラッグの数を示
す「位置説明」のB欄を見ると フラ
ッグ数はすべて「A」。つまり、視認
できるフラッグのほとんどが、「A」か
「Z」の解答を選ぶ フラッグ一個の
コントロールなのだ! そのようなコン
トロールが、「位置説明」では5個続
いている。いったい、これはナンダ!

・・・こんな情景が 間もなく世界トレ
イルO選手権でも見られることになる。

コントロールでのフラッグは2個か
ら5個のはずなのに、1個しか見えな
い・・・十数年前から、トレイルO
という競技は、コントロールにセット
されている2~5個のフラッグの中か
ら 正しく円の中心にあつて、なおかつ
コントロール位置説明とも合致してい
るフラッグがどのフラッグかを見極め
る競技である・・・というように教わっ
てきたし、また、事実そのように実施
されてきた。

ところが、ここ数年前から ただ一個
のフラッグを使ったコントロールが、
オーリンゲンで使われ出し、ヨーロッ
パでのあちらこちらのメジャー&マイ
ナー大会でもごく普通になってきてお
り、そしてとうとう IOFの世界選手権
大会(WTOC)のコースでも見かける
ようになってきた。

ただ一個のフラッグを使用するわけ
だから、そのフラッグがコントロール
円の中心にあるか(解答はA)、そうで
ないか(解答はZ)の選択肢はただ二
つとなり、このことから、コントロ
ールのセッティング技術は非常にハイ
・テクニク傾向となりつつある。
そして、さらに最近では、そこが一個
のフラッグを使うコントロールであつ
ても、DPから見えるフラッグが一個だ
けではなく、複数のフラッグが視
野に入ってくる・・・という状況が現わ



コントロール:

#1 尾根、上部
#2 尾根、上部

#3 沢

#4 沢
#5 西のこぶ

#6 こぶ、北東の根元

フラッグは正しい位置にあるので 解答は「A」
円の中心にフラッグなし。解答は「Z」。
東の尾根にフラッグがあるが、もちろん違う。

フラッグ位置は正しいので「A」。
コントロール#2のフラッグが近く(西)にあるが、明らかに異なる
特徴物(尾根)についていることに注意。

該当フラッグ無し「Z」。 フラッグは南西の隣接する沢にある。
正解「A」。 DPからは北東方向にいくつかのフラッグが見える。
しかし、類似の特徴物にあるとはいえ、それらは#5のコントロ
ール円外にあるため、こんがらかることはない。

ここは、通常のコントロールでA-Dのフラッグ
(視野に入る#5のフラッグを合わせて4個見える)。円の中心
にあるフラッグAが正解。4番目に見えるフラッグ(D)を、ス
トリーマを使って除外することも出来るが、その場合、このコン
トロールでのフラッグ数はA-Cとなる)

れだした・・・という、やや混乱気味の
体。そこで IOFのトレイルO委員会
(Trailo Commission=TOC)で検討を重ね、
この一個のフラッグを使ったコントロ
ール(「A」コントロール...と呼ぶ)
に関する新しいガイド・ライン(テク
ニカル・ノート)を定め、状況の整理
をおこなった。

そして、トレイルOに関するする IO
Fがらみの大きな動きが、フラッグ
が一個だけで構成されるコントロール
が正式に認められたということだ。

一個のフラッグを使ったコン トロール

それぞれのコントロールには ただ

1個のフラッグが用いられ、円の中心
の特徴物に正確に設置されているか
(解答はA)、そうでないか(Z)、
または中心点を外れた、近接した特徴
物に設置される場合(Z)がある。

DPからは他のコントロールの フラッグが見えてもよい

その「A」コントロールのDPから他
の「A」コントロール(のフラッグ)が
目に入ってもかまわない。また、近く
の通常のコントロールの複数フラッグ
が見えることも差支えない。しかし、
課題対象となるフラッグは、あくまで
も「ひとつ」。

また、反対に、通常のA-Cなどのコン

トロールのDPから、その近辺の‘A’コントロールのフラッグが見えてもよい。‘A’コントロール群(これを‘A’クラスターと呼ぶ)に近接した通常の複数フラッグを持つコントロールについては、テープ(ストリーマ)で対象フラッグを区分する。このことを逆に考えれば、区分されていないかぎり、目に入るフラッグはすべて‘A’コントロールとしての課題となるということだ。

実際例を見てみよう

- この例は、No. 1-5の‘A’コントロール群と、近接した通常のコントロール(No. 6)を示す
- このエリアには合計8個のコントロールフラッグがある。5か所の‘A’コントロールにはそれぞれ一つずつのフラッグが、そして通常のコントロール(#6)に関しては3個のフラッグがある。
- 近接コントロールのため、コントロール・ラインは使用していない。
- 5個の‘A’コントロールに関する全てのフラッグは、共通のDPから見ることが出来る。(DPは分けてもよい)
- 図中の「VP」=「DP」 ヨーロッパでは「VP」=Viewing Point が使われることが多いが、規則上は「DP」である。

おさらい

そのコントロールに関連するフラッグの数は、位置説明のB欄に表示されている数である。

- (1) 「A」と表示されている場合は、たとえいくつものフラッグがDPから見えていても、1個のフラッグだけが課題対象である。この場合は、他のフラッグにまどわされないように、まず課題となるべきフラッグがどれかを、地図と現地との照合でコントロール円を想定することから選び出さなければならぬ。
- (2) ‘A-B’, ‘A-C’, など1個以上のフラッグが表示されている場合は、競技規則に示されているように、その数のフラッグが課題対象となる。(従来どおり)
- (3) 要はコントロール(円)の範囲を正しく把握し、つぎに、円の中心にフラッグがあるかないかを細密に、正確に判断することである。

‘A’コントロール・・・一個のフラッグで構成されたコントロール
‘A’クラスター・・・‘A’コントロールの何個かの集まり

世界トレイル0選手権情報

ことし(2012年)はWOC開催国のスイスが、「われわれはトレイル0世界選手権大会主催のスキルを持っていない・・・」という理由でWTOC開催を辞退してしまったので、急遽英国が手を挙げてスコットランド南西部、エジンバラ北東のDundee(ダンディー)での、ロンドン・オリンピックを避けて少し早目の開催となった。

6月6日

開会式、テンポ・トロフィー・・・トレイル0のスプリント競技といわれるテンポ(Temp0)の競技会。
テンポ競技は、ここ1~2年以内に、世界選手権種目となる予定。(テンポ競技については本誌2008.02月号および06月号参照)

6月7日 モデル・イベント、開会式

6月8日 DAY 1

6月9日 DAY 2

国対抗チーム競技
(各国からあらかじめエントリーした3名の合計成績で競う)
表彰式、閉会式
はたして「日の丸」が揚がるか?

期待のかかる日本選手団

出場選手(オープン・クラス):

木村治雄、小泉辰喜、山口拓也

出場選手(Pクラス):

木島英登、高柳宣幸、森長三

チーム・マネージャー:

小山太朗 同補佐:田代雅之

オープン・クラスは、今、一番“油”の乗り切った3人です。好成績が期待されます。

なお、来年以降のWTOC開催予定

2013 ブオカッティ Vuokatti (フィンランド、ヨエンスーの北北西)

7/6 - 7/14?

EA = レナート・ワルグレン(SWE)

Temp0 世界選手権大会の正種目予定

2014 アジアゴ Asiago 付近 (イタリアベネト地方 世界大戦の激戦地で、爆撃の後の凹地がゴロゴロ)

8/23 - 8/30? EA = 未定

(こやまたろう)